

# 小児集中治療室に入院された方の情報を用いた医学系研究

## 「側弯症の周術期疼痛に関連する因子の検討」

### に対するご協力をお願い

研究責任者 富田 健太郎  
研究機関名 慶應義塾大学医学部  
(所属) 小児科学教室

このたび当院では上記の医学系研究を、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

今回の研究では、同意取得が困難な対象となる患者さんへ向けて、情報を公開しております。なおこの研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

#### 1 対象となる方

西暦 2019 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 までの間に慶應義塾大学病院で側弯症の手術を行い、術後小児 ICU へ入室した方が対象となります。

#### 2 研究課題名

承認番号 20251013

研究課題名 側弯症の周術期疼痛に関連する因子の検討

#### 3 研究組織

研究機関

慶應義塾大学医学部小児科学教室

慶應義塾大学病院小児科

研究責任者

(職位) (氏名)

助教 (有期・医学部) 富田健太郎

#### 4 本研究の目的、方法

側弯症は脊柱に 3 次元的に変形を引き起こす疾患で、そのうち特発性側弯症は思春期の 3%に見られます。本邦は学校検診で側弯症検診を行なっていますが、13~14 歳女兒での発生率は 2.5%と報告されており、適切な治療を行わなければ変形が徐々に進行する可能性があることが知られています。これは、生活の質に大きな影響を与え、装具治療では効果的に矯正できない場合、手術を行うことにより変形の矯正をすることが可能であり、外科手術を行なった場合 95%の症例で矯正に成功しています。ただし、周術期の疼痛管理がしばしば問題になり、周術期の疼痛管理は術後入院期間と密接な関連が報告されており、本邦において側弯症の周術期の疼痛管理と関連を示す因子の報告は少ないです。方法は対象となる患者さんの診療録から診療情報を収集し、統計学的手法を用いて解析します。それにより、側弯症患者さんの周術期における疼痛管理をより適正化することに繋がり、術後予後を改善に繋がる可能性があります。

#### 5 協力をお願いする内容

対象となる患者さん (1. 対象となる方の項参照) の診療録を閲覧し、患者さんの情報 (月齢、性別、病歴、手術中の人工心肺使用の有無など)、臨床検査データ (血液検査)、治療内容の情報を収集させていただきます。

#### 6 本研究の実施期間

研究実施許可日~2035 年 03 月 31 日

#### 7 外部への試料・情報の提供

該当致しません。

#### 8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人 (ご本人より本研究に関する委任を受けた方など) より、情報の利用の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

慶應義塾大学医学部 小児科学教室 水野泰昭

住所：〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35

電話番号：03-5363-3816 (休日を除く 10 時~16 時)

以上